
異常な世界 男子高の物語で B L 要素満点です^{WW}

和茶巢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

【Nコード】

N6252X

【作者名】

和茶巢

【あらすじ】

上陽学園、ここは日本で一番入るのが難しい男子高だ。そこに通う男子たちが繰り広げる、物語。BLです。

異常な世界 一話（前書き）

小泉 こいずみ 春（春）

誕生日 4 / 7

高校三年の18歳

周りにはバカって言われているww

高校一年の弟がいる。

そして、弓道部の部長をやっている。

クラスの中では成績は下から数えたほうがはやい。

家は政治関係の仕事をしている。

誰にでも優しく、クラスの人気者。

異常な世界 一話

？「もうすぐでもうすぐで会えるんだよ。ねえ、早く会いたいな。」

高校三年の初めこんな事が始まるうなんて…

タツタツ

春「ヤバイヤバイ！あと、五分！！」

ハアハアハア

春「セツセーフ！！」
バンッ

？「アウトだバカ。」

春「痛！！なっ、セーフだろ！結！！！！」

結「一分遅れてんだよ。」

春「一分ぐらいいいじゃねえか！」

結「駄目な物は駄目だ！」

春「結のケチ！！行くなら起こしてくれたっていいじゃないか！」

結「バカか、今日は生徒会の仕事ではやくから行くって言うてただろ！」

春「あーもう！バカバカうるさいんだよ！！結のバカ！！」

結「チッ、やんのか！？」

タッタッタ

？「結さーん！！いい加減喧嘩しないで来てください！もうすぐ、始業式が始まりますよ！！」

結「ああ、ごめん空。今からそっちに行くよ。」

空「はい！」

結「そうだ、おい春これ。」

そっいつて結が俺に紙とネクタイを渡してきた。

春「ん？」

結「ん？じゃない。紙は組が書いてるやつ、ネクタイはお前がしてないからな！」

そっいつて、結は俺の首にネクタイを着けてくれた。

結「始業式ぐらい、ちゃんとした服装で来い！」

春「すまん。でも、サンキュー！ありがとうな！！」

ジッ

うわ、結の後ろから冷たい視線が！

結「空体育館にいくぞ。」

空「はい！わかりました！」

コソ

空「春もさつさと体育館に来いよ。結さんに恥じかかせたらタダじやおかねえから。」

うわーすごい変わりよう

異常な世界 一話（後書き）

あきづき
秋月 結 ゆい

誕生日 12/2

成績優秀・運動神経抜群・文武両道とゆうすごい肩書きをかつさ
っている高校三年。

春とは、小学校の頃出会ったところからの付き合いで幼なじみ。
クールで静かだが、怒ると怖い。

家は上陽学園の理事長や校長、医者などをやっている。
生徒会長をしている。

空は次の前書きで書きます（＾ｏ＾）／

異常な世界 二話（前書き）

野上 空 のがみ そら

誕生日 5 / 14

生徒会副会長

家は野上財閥という有名な財閥で世界で一番か二番を争う財閥だ。そして、結の事が大好きで、結にだけは敬語を使う。

春たちとは中学生から付き合うようになった。

岬とは幼なじみ。

異常な世界 二話

ガラッ タッタッ

？「おい！遅かったな。寝坊か？」

春「うるせえ、いいだろ！岬！」

岬「なんだと！喧嘩売つとんのか？」

空「その人たち。もうすぐ、始業式が始まるので静かにしてください！」

岬「つと、始まるみたいだな。静かにするか。」

春「そうだな。」

空「ただいまから始業式を行います。新一年生が入場しますので、拍手で迎えてください。」

パチパチパチ

ボソッ

岬「なあ、春の弟ってこの学園に入ってたんだよね？」

春「ああ、一年の代表だったかな？」

岬「マジか！兄弟で大違いだなwwてか、Sクラス行き間違いないんじゃない？」

春「かもなww」

この学園は一年は様子見のため成績順でA～Dの4クラス。二年からはその上のクラスSクラスと言うのが出来る。そして、俺ら四人はSクラスに所属している。

さつさと、おわんねえかな？

結「それでは、先生方の紹介をいたします。」

岬「なあ、また理事長や校長たちは丸投げか？」

春「そうじゃねえ？」

ここの先生たちは大抵生徒の自主性を伸ばすために始業式などの司会は生徒に任せている

結「それでは、一年の先生方から…」

岬「先生だれになるんだろ？」

春「どうせ、また新谷だろ？あいつ先生の中で一番偉いんだろ？」

岬「なんだ。てか、俺あいつ嫌いなんだよな。」

春「俺もだよ。」

結「Aの担任は新谷先生。」

ザワザワ

岬「はあ！マジで！？」

春「毎年、Sクラスの担任は新谷だろ？」

空「静かにしてください！」

結「えゝ、それではSクラスの担任は…。」

春「なんで！？なんでいるんだよ！？」

異常な世界 二話（後書き）

すずおか みさき
鈴岡 岬

誕生日 9 / 7

剣道部の部長

こいつもバカと言われている。

春とは最下位争いを繰り広げている。

家は剣道の名門である事情があつて、別の仕事もしている。

空とは幼なじみで春たちとは中学生から付き合うようになった。

異常な世界 三話（前書き）

憂騎 零 ゆうき れい

誕生日 8 / 17

現在20ながらも上陽学園の先生になることになった。
学園にいたときはテストは100以外だった事はないくて生徒会長
をやっていて、結も入学式に強引に生徒会に入れられた。
今年、Sクラスをもつ事になった。

異常な世界 三話

？「ハロ― 一・二の奴らは初めまして！三年の奴らは久しぶり」

ダッダッ

春「なんで！？なんで、零が入るのか、先生になったってマジ！」

零「春！！久しぶりだな！元気にしてたか？てか、先生じゃ無かったらここにいないだろ？相変わらずバカだなww」

春「バカ言っな！てか、今零って今年で20じゃなかった？」

零「そうだよ。大人の事情だから、詳しくはきくなww」

春「わかった！」

結「憂騎先生と小泉さんは早く戻ってください。」

零・春「えゝ！」

空「さつさと帰れって言ってんだろ？五秒以内に帰らないと反省文50枚。もちろん、先生も」

うわ怖！

春「岬く怖かった！！」

岬「ドンマイww空は怒らすと怖いからなww」

結「次は、一年生徒代表の挨拶です。」

？「はい。先輩の皆さま方、一年代表の小泉 葉です。」

岬「春、弟の登場じゃん！」

春「ああ。」

結「以上で始業式を終わります。」

異常な世界 三話（後書き）

小泉 葉 こいずみ よう

誕生日 3 / 26

春の弟

もしかしたら、春より賢い！？

一年代表でAクラスに所属している。

岬の事を師匠とよんでいて、したっている。

異常な世界 四話

春「にしても、疲れた！ なげーよ！！」

岬「始業式はまだ短いほうだろｗｗ　つか、弟くん凄かったな！！」

春「ああ、そうだな。」

岬「ん？　どうした？」

春「なんでもねえーよバカｗｗ」

岬「なっ！？　お前のほうがバカだろ！！」

？「バカども、ケンカはやめろ。」

春・岬「ああ！？」

空「そうだよ、ケンカするなみつともない。」

春「ああ！？　なんていった？」

結「うるさいバカ！　バカにバカっていつて何が悪い。」

春「ああ！　それは、ケンカ売ってんのか？」

澪「初日からケンカするな！　バカやろうども」

結「なっ!?!」

春「はっはっはっ! 結バカやろっつて言われてる!?!」

結「うるさいな!」

漣「お前らあと五分でホームルーム始まるってわかってっか?」

岬「うわ!?! ほんとだ!?! やべえ!」

空「わかってたなら、先に言えよ! 漣じゃなかった憂騎先生!?!」

漣「遅れたやつ、殺すからww よーい」

春「ちよっ!?!」

漣「どん!」

異常な世界 四話（後書き）

どーも！

作者ですw w

いつもは、キャラ紹介なんですけど、新キャラが今回はいないので書けませんw w

まあ、後々でる予定ですw w

次の予告

三年になった四人、教室では見慣れた光景が思ってたらず。新しい影が！

次回もみてくださいm (_ _) m

異常な世界 五話

春「はあはあはあつ。」

結「くそつ。」

空「鬼畜すぎるだろ！」

岬「まあ、間に合ったにいいんじゃない？」

春「そうだけど、体育館からここまでダッシュってww」

岬「まあ、いい練習になったとおもえばいいんじゃない？」

結「たしかに。」

空「岬もいいことたまには良いこというな。」

岬「たまにつてww」

春「…。なあ？」

結「なんだ？」

春「人変わってね？」

岬「ほんとに、五人ぐらい変わってる。」

空「ある意味お前らが落ちてないのが、不思議だなwww もしろん、結さんは別ですよ!!」

この学校の制度で成績順にクラスの入替えがある。
だけど、Sクラスのクラス替えは珍しいものだ。

結「見たところ、四人ぐらい転校生みたいだな。」

岬「うわっ！ 転校してきてSクラス行きなんてやべえなwww」

空「というか、その転校生どっちも双子みたいですねwww」

春「ある意味すげえなwww」

岬「ん？ なんか、そのうちの二組が近づいてくるぞ？」

異常な世界 五話（後書き）

はいっ！

五話の終わりですw w

次は二組の双子の登場です！！

次回予定

春たちの前に現れた、二組の双子。

それも、どっちも何かわけがあるみたい。

いったい、春たちになにか関係が？

異常な世界 六話（前書き）

神宮寺 雅 じんぐうじ みやび

誕生日 2 / 12

ある、有名な剣道道場の跡取り息子
昔は京都に住んでいた。

なので、時々関西弁になる。

髪が長くて女によく間違えられる。

昔岬と何かあったみたいだ。

棗は双子の弟

神宮寺 棗 じんぐうじ なつめ

誕生日省きます

雅の事をしたっていて懂れている。

髪は短く、顔立ちはきれいだ。

棗は剣道より柔道や空手、体を使う技を得意とする。

雅は双子の兄

異常な世界 六話

？「久しぶりです。」

？「元気になってみたいだな」

結「岬？知り合いか？」

岬「あっ！？…。 すまん誰だっけ？」

？「あつ、やっぱり覚えてないですね。」

？「そりゃ、10年ぶりぐらいだからな。」

岬「ごめん。 つか、10年前って何かあったような…。」

空「珍しいね！ 岬が記憶を忘れるなんて…！」

岬「くそっ！ 思い出せねえ！」

？「いいんですよ。 そのうち思いだしてくれたら。」

？「なあ、雅。 忘れられてるなら名前いってこつぜ。」

春「おお！ 頼むな！」

？「それじゃあ私から。 私の名前は神宮寺 雅です。 隣にいる棗の双子の兄です」

棗「俺は神宮寺　棗だ！　隣にいる雅の双子の弟だ」

岬「忘れちまってごめんな！　ちゃんと思いだすから！　これからもよろしくな！！」

雅「はい！」

棗「よろしくな！」

キンコーンカーンコーン

雅「チャイムがなったので僕たち戻りますね」

空「また、あとでね！」

棗「やっぱり、岬のやつ昔の記憶消されとるな。」

雅「みたいやな。　残念やわ。　けどな、棗獲物が近くにおるやん。」

「

棗「やな。相手は俺らにきずいてへんみたいやし。」

雅「すぐに仕留めたんねん。また、昔のように笑顔になってもらうために。まっとうてな、岬はん」

異常な世界 六話（後書き）

裏側ww

春「なあ、今回俺ら出番少なくなねえか？」

結「だよな。」

春「これからは、結の出番は多分へると思うよww（by作者）だ
ってwwww」

結「なんだって!？」

春「お前、ある意味主役てき立場なのになww」

結「くそっ！ どうせ、今出てきた新キャラをいっぱいだすんだろ」

春「みたいだなww」

結「はあ、最悪だ」

春「けど、俺はいつでもお前を見てるから」

カア〃〃

結「急になっなにいつてんだ!」

春「顔真っ赤だぞww」

結「うっうるさい！」

春「かわいいなww」

結「やめろー！！！」

空「まあ、こんな風に時々出番が少ない人が喋るみたいですね。まっ、気が向いたらみてくださいなねww」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6252x/>

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

2011年11月18日11時35分発行